

分野:基礎病態学

主科目 副科目	移植免疫学 Transplant immunology	DM_1206	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--------------------------------	---------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎ 下川 智樹			内山 雅照	新見 正則 (客員教授)
-					
-					

	移植免疫学Ⅰ（1年次）				移植免疫学Ⅱ（2年次）				移植免疫学Ⅲ（3年次）			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	移植免疫学を免疫学解明のひとつの手段として利用する。実験はマウスの心臓移植モデルを用いる。				免疫学的解析が行えるようになることが最重要である。フローサイトメーターを使用して細胞の分離も行う。また免疫組織学的染色も会得する。				過去2年間の基礎的成果を基に、生態環境の変化が移植免疫系にどのような変化をもたらすかを検討する。既存薬剤の移植領域での有効性を研究することも可能である。			
到達目標	実験用顕微鏡を用いてマウスの心臓移植を45分で90%の成功率にする。またマウスの飼育の方法、繁殖の方法なども学ぶ。				MLR,ELISA,組織染色、フローサイトメーターによる細胞分離を1人で行えるようになる。				既存薬剤は西洋薬または漢方薬などから希望のものを選ぶ。環境因子としては臭い、音、湿度、温度、ストレス、空腹、過食、などが候補になる。			
事前事後学修	次回の授業範囲を予習し、専門用語等の意味を理解しておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				次回の授業範囲を予習し、専門用語等の意味を理解しておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				次回の授業範囲を予習し、専門用語等の意味を理解しておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	講義・演習・実習の課題 40% 毎週の実験報告とdiscussion 30% 毎月の進捗報告時の口頭試問 30%				講義・演習・実習の課題 40% 毎週の実験報告とdiscussion 30% 毎月の進捗報告時の口頭試問 30%				講義・演習・実習の課題 40% 毎週の実験報告とdiscussion 30% 毎月の進捗報告時の口頭試問 30%			

■主な演習(講義・実習含む)

	移植免疫学Ⅰ (1年次)	移植免疫学Ⅱ (2年次)	移植免疫学Ⅲ (3年次)
板橋	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	免疫学・移植免疫学概論	免疫学・細胞培養総論	自然免疫・免疫抑制剤・移植の歴史
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	移植免疫学・近代医学の歴史	組織染色・ミクロ解剖学総論	免疫学的実験方法総論
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	免疫学とノーベル賞	抗体・獲得免疫の歴史	英文論文の読み方・書き方
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

教科書・参考書

講義内で紹介

その他履修上の注意事項

世界で通用するサイエンティストを養成します。臨床だけを将来行う人には不向きです。卒業後は海外のラボを紹介します。もちろん留学費用が出るラボです。その後は、本人の能力次第でしょう。

講義・実習・演習の詳細については個別に案内します。

試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。

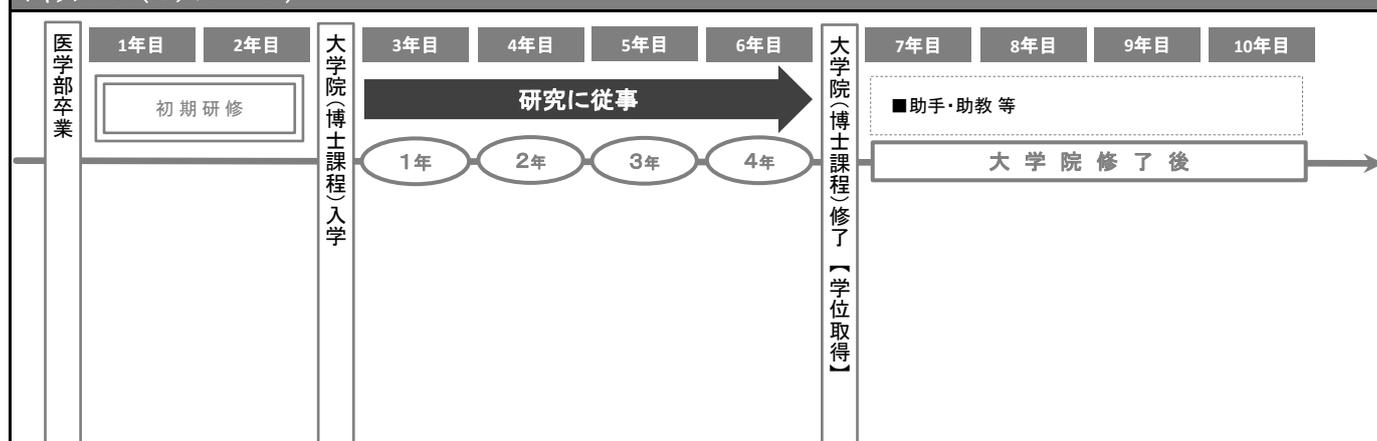
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	微生物学系、神経薬理学から1科目以上を履修する。
	共通科目	特になし

関連する専門医資格

特になし

キャリアパス(モデルコース)



※社会人枠のキャリアパスについては各講座にお問い合わせください。